山形県村山市

むらやま議会だより

もっと知ってほしい、みんなの議会

-2026-
11.1
vol.131

令和8年
9月定例会



TOPICS

◎ 決算特別委員会
◎ むらやま未来議会
開催のお知らせ

市内で輝く若者

村山市議会

村山市議会ウェブサイト▶

特別会計　企業会計　88億2,292万円を認定

9月 定例会

工事着手へ！

総額183億4,939万円

令和８年第６回定例会は８月31日から９月17日までの会期で開催され、令和７年度決算などの審議を行いました。条例の改正、人事案件など18件が提案され、一般会計補正予算、特別会計補正予算、決算７件は特別委員会に付託し、全議案原案のとおり認定・可決し閉会しました。

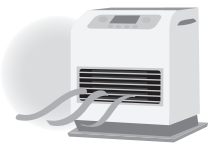
この背景は

そば花畑（山の内）

●令和８年度一般会計補正予算のポイント

福祉暖房費助成事業

1,910万円



住民税が非課税・均等割のみ課税世帯へ暖房費を助成するものです。

空き家対策事業

・工事請負費　405万円
行政代執行の解体費用を増額するものです。

・老朽危険空き家除却促進事業補助金　150万円
個人による空き家解体除却の増加を見込んでのものです。

狩猟免許等取得支援事業補助金

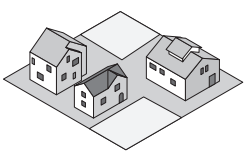
102万円



10人程度の免許取得希望者に補助するものです。

市有地活用宅地造成事業

・測量設計等委託料　451万円



スマイルタウンはやまを拡張（５区画分）するものです。

令和７年度決算総額　一般会計　190億3,420万円

令和８年度 葉山学園改修

一般会計予算 １億3,812万円を追加、

気になる！新「道の駅」




盛土による圧密沈下で地盤を安定化中

９月現在、造成工事の半分を終え、載荷盛土中です。また、周辺道路の整備が進められています。

葉山学園工事請負契約締結を可決（追加議案）

葉山中学校校舎改修工事は村山建設共同企業体（村山市）が６億４７６８万円で落札し、契約の締結を可決しました。

第５回臨時会

令和８年第５回臨時会が７月31日に開催され、ひとり親家庭等子育て応援給付金や葉山学園整備事業など４８０２万円を追加し、原案のとおり可決しました。

審議結果報告

（９月定例会において賛否の分かれた議案についてのみ記載しました）

議案等の名称		議決結果	松倉慶子	矢萩浩次	石澤祐一	大山正弘	秋葉新一	細矢清隆	森直也	瀧田順子	柴崎亮太	高橋菜穂子	吉田創	髙橋卯任	阿部正任	中里芳之	賛成	反対
			市政・公明クラブ						市政クラブ					改革クラブ		無会派		
市長提出議案	第72号 村山市印鑑条例の一部を改正する条例について	可	○	○	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○	○	×	12	1

議長は可否同数の場合以外は採決に加わりません。　可＝可決　否＝否決　○＝賛成　×＝反対　欠＝欠席　退＝退席　議＝議長　裁＝裁決

審議討論

議案第72号について
中里芳之議員より反対討論がありました。

動画はこちら→

令和７年度 決算特別委員会

令和７年度の一般会計および特別会計６件の決算は、決算特別委員会で審議しました。各委員から出された質疑について、いくつかお知らせします。

動画はこちら→

松倉慶子
自治公民館整備費補助金

Q 制度の実績は。

A エアコン設置、屋根修繕、解体など14件を実施。

Q 今後に備え、施設照明のLED化および耐震診断の促進を行うべきではないか。

A 要望調査時、補助内容を周知し活用していただけるように努める。



新しいエアコンが設置された大槇地区自治公民館

中里芳之
消防団員の処遇改善

Q 消防団員が平日に出動した際、有給休暇の消化や欠勤扱いにならないよう会社に働きかけていくことが必要だ。そのために実態がどうなっているか調査すべきではないか。

A 他自治体の状況も調べて研究していく。

Q 平和宣言都市の本市が、軍事分野に参入する楽天を、ふるさと納税ポータルサイトとして利用することに矛盾を感じないか。

A 矛盾かどうかの判断は難しい。

高橋菜穂子
決算から見える今後の住宅政策は

Q 住宅取得支援が減少する一方、リフォーム支援は3年連続で増加。市営住宅の入居率は、89・9％。空き家除却は12件、除却後の土地が売却や新築につながった事例もある。今後の住宅政策をどう考えるか。

A 住宅を取り巻く環境の変化を踏まえ、民間の動向も見ながら総合的に検討していく。

瀧田順子
村川透監督映画制作負担金

Q 2000万円の予算に対し、決算額が150万円となった経緯は。また、映画を今後、市のPRにどう生かすのか。

A 年度内の寄附は企業版ふるさと納税2件150万円、その額を執行した。令和8年8月末では約930万円の寄附が寄せられた。映画が広く知られることで、市の知名度向上や来訪者の増加につながることを期待している。



市内が撮影の舞台に

石澤祐一
除雪扶助費

Q 豪雪対策本部の設置基準を見直し、積雪量が多い地区に基準を合わせるべきではないか。

A 設置基準については、どのようにすべきか研究していく。

Q 市道除雪業務委託料は、除雪体制を維持していける金額になっているのか。

A 今後も現場の意見を聞きながら検討していく。



２階が見えなくなりそうな雪

森直也
高齢者等除雪費支援事業

Q 実績と今後の除雪支援の充実について伺う。

A 費用の８割(限度額内)を支給する制度で支給件数は１２８件、支給総額は４４６万円。
これからの状況をみながら、他の施策や金額の増減について検討していく。

総務文教分科会

地域みらい留学

プラットフォームへの参入によるPR効果などにより、入学者増加に結び付いていますが、農業を基幹とする本市とのつながりが深い大切な高校として、今後も入学希望者を確保できるよう継続した取り組みを希望します。

葉山学園の整備

準備委員会を立ち上げ、スムーズな開校に向け着実に進めていますが、統合後も子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、計画的な取り組みを要望します。

地域防災対策

近年、地震による建物の倒壊や、大雨による河川の氾濫、道路の冠水など、防災を取り巻く環境は厳しさを増しています。災害時に備えた食料や飲料水など、計画的にローリングストックを行っており、今後も災害時には、市民が安心した生活を一日でも早く取り戻すことができるよう、入念な備えを要望します。

地方バス路線の運行負担

北村山三市一町で運行に要する経費を負担していますが、市民の利用状況の把握がなされていません。他市町との連携は必要不可欠ですが、市の実状に合った、持続可能な公共交通を検討するよう要望します。

災害への広域対応

近年、緊急消防援助隊など、複数の機関と連携して現場活動に当たる大規模災害が増加する中、懸命に対応にあたる職員の皆様に敬意を表すとともに、今後も安定的な災害出動が可能となるよう、特段の配慮を要望します。

村山市民会館

山形交響楽団のコンサートなど幅広く利用され、文化に触れる機会を提供する施設である一方、開館から60年を迎え老朽化が際立っています。市民が集いやすい施設となるよう、今後の在り方の検討を要望します。

市公式LINE

クマの出没情報など、市民の安心安全に直結する情報の発信により、登録者が増加しています。

今後もニーズに寄り添った情報発信を期待します。

予算は正しく使われたのか？

産業厚生分科会

遊休農地対策

現況を分析し解消に向けての方向性を明確にするとともに、能率給の支給が円滑かつ効果的に行えるよう、またタブレットのさらなる活用など、農業委員や農地利用最適化推進委員が活動しやすい環境の整備に努めるよう要望します。

重点作物推進事業

営農指導やPRの強化など各種支援策の実施により、販売額や経営体数が増加するなど、着実に成果が表れています。生産者がさらに儲かる仕組みづくりを今後も継続して取り組むことを要望します。

創業支援事業

より利用しやすい内容になるようメニューの見直しを要望します。また、創業関連の情報収集に努め、関係部署と連携を図りながら、新たな事業創出を促進し、地域経済活性化と雇用の維持・拡大につながる支援を要望します。

駅西開発事業

商業・産業施設の誘致に努め、地域経済の活性化と賑わい創出が実現できるよう期待します。新「道の駅」の整備事業については、設計業者、運営事業者と本市の三者間協議を確実に実施しながら推進していくよう要望します。

道路維持管理事業

全国的に集中豪雨によるアンダーパスなどで車輌が水没する事例が多数発生しているため、必要な安全対策を講じることを要望します。

子どもの健康診査

新たに5歳児健康診査と発達相談が実施されました。それらの結果を踏まえ、関係部署と連携を図り、受け入れ体制の整備推進を望みます。

障がい児保育支援

現在の障がい児保育支援事業は、障がい児の人数に関わらず受け入れ施設へ補助金を一律支給しているため、補助内容の見直しと保育士の負担軽減策の検討を要望します。

民生委員・児童委員

処遇・活動費の改善や積極的なPR活動を行い、民生委員・児童委員が安心して活動できる環境整備を要望します。

上下水道事業

コスト意識を高め、維持管理を徹底し、持続可能な財政運営に努めるよう要望します。

市民の命を守る 大規模災害への備えは

動画はこちら



瀧田　順子 議員

Q 道路が寸断し地域が孤立した場合、水や食料などの必要な物資を確保できるのか。

A 学校には簡易トイレや毛布を備蓄している。その他必要物資はリンクむらやまの備蓄倉庫から運搬する。飲料水は日本水道協会の協力や給水車による提供などを想定している。

Q 災害時、避難行動要支援者をどのように支援するのか。

A 要支援者名簿を作成し、そのうち個別避難計画登録者は３７７６人。災害時には必要に応じ、消防や警察、地域の避難支援関係者などに情報を提供する。

Q 積雪期の大規模地震で避難路や救助・物資輸送の動線をどう確保するのか。

A 地域防災計画に基づき、道路や住宅の除雪体制、緊急輸送道路の確保、避難所の寒冷対策を行う。道路寸断時には除雪機械を集中投入し、早期の復旧につなげる。

Q 災害関連死を防ぎ「見えない避難者」をどう支援するのか。

A 避難者の健康状態を把握し、必要な医療・福祉支援につなげる。在宅避難者や車中泊避難者など「見えない避難者」への支援についても検討していく。



災害時に備え長期保存水や
アルファ化米を保存

指定管理者制度 施設ごとに最適な運用を

動画はこちら



高橋　菜穂子 議員

Q 指定管理者制度の導入から20年が経過する。これまでの運用や、一者応募が続く現状を検証し、次の公募に生かすべきでは。

A 一者応募になる原因は、本市の規模やその業務内容から応募できる事業者が限られるなどの理由があるものと捉えている。今後の公募については、各課において検討していく。

Q 保育施設では子どもや保護者にとっての継続性を重視した選定を検討すべきでは。また、再編を迎える学童保育では、現在の委託と指定管理を比較し、より安定した運営体制を検討してはどうか。

A はやま認定こども園は、今回は改修を控えるため公募しない。令和11年度以降は、公募する考えでいる。選定においては、保育の特性を評価項目に入れている。学童保育については、これまでの実績なども考慮しながら、選定方法を検討していく。

Q クアハウス碁点については、初めて公募する。今後のクアハウスに何を求めるのか。

A 今回、施設改修を一体的に行う計画を募集する。公共性も大切にしながら、できるだけ民間の裁量度を高めることが重要だと考えている。

Q 大切なのは、何を実現するために指定管理者制度を使い、指定管理によって目的が達成されたかどうかを評価することだと考える。評価制度を導入し、評価し、公募・非公募、委託、指定管理など最適な手法を選択する制度運用にすべきではないか。

A 評価制度もひとつの案として、指定管理者制度について総合的に検討していく。



指定管理運営による
はやま認定こども園の日常

基金（市の財産）をインフレから守る

髙橋　卯任 議員

動画はこちら



Q 本市における人口減少、高齢化の進展は今後の市税収入の減少に直結する。一方で、社会保障関係経費の増大、公共施設の老朽化対策、自然災害への備えなど、将来的に多額の財政支出が予想される。「収入の減少」と「支出の増大」という構造的な財政の板挟み状態において、基金（市の財産）は未来の市民を守る大切な財産と考える。本市が保有する基金残高はどれくらいか。

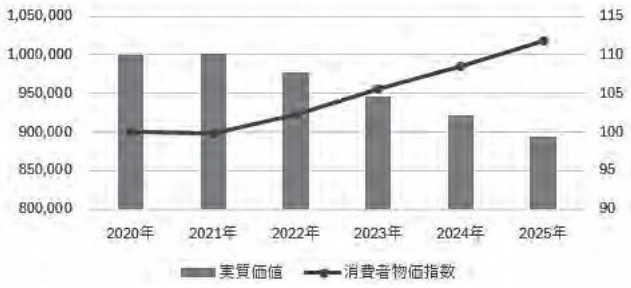
A 令和7年度末で、一般会計と三つの特別会計で合計15の基金があり、総額で約58億円ある。

Q これまでの基金の運用方針を伺う。

A 市が保有する資金を、安全かつ効率的に配慮した管理・運用を行うため、村山市資金管理方針を定めている。令和6年4月の改正までは、基金は預金により運用すると規定されていた。

Q インフレ率が預貯金の金利を上回る経済環境下において、基金のお金は額面上の数字こそ減らないが、実質的な購買力を確実に目減りさせている。「インフレから市の財産を守る」ために、安全性の極めて高い国債などを活用した債券運用を取り入れるなど、時代の変化に合わせた実効性のある運用方針へ転換してはどうか。

A 基金運用は安全確実な方法と定められている。検討はしてみるが、危ないものには手を出さない。



消費者物価指数に基づく「100万円」の実質価値の推移

害獣被害を地域資源に！有効活用の挑戦

吉田　　創 議員

動画はこちら



Q 令和8年産米の価格下落はどのような影響を与えるのか。また、再生産可能な米価と持続可能な農業について伺う。

A 生産コストは1俵(60kg)あたり2万535円。生産コストを上回る米価が生産継続のひとつの基準。米価が生産コストを下回れば、生産意欲の低下や離農、遊休農地が増加する恐れがある。今後、基盤整備を進め、地元産米の価値と適正価格を消費者に理解してもらうことが重要である。

Q 年々、有害鳥獣被害が増えている。捕獲したイノシシなどを食肉として活用し、地域の新たな産業や観光、食文化につなげられる可能性がある。ジビエ※の取り組みについて伺う。

A 市内や近隣市町に販売につながる加工施設がなく、市場流通するジビエ活用はできていない。現在は埋設や一部自家消費が中心だが、猟友会の若手を中心に解体・調理などの情報交換が行われている。

Q 食肉利用できない個体を有効活用するため、堆肥などの有機資源として循環させる減容施設※を整備してはどうか。

A 埋設作業は捕獲者の負担となっている。県内の導入事例を視察し、簡易的な減容施設の導入に向け研究を進める。

Q 北村山地域の市町などと連携し、捕獲から処理・利活用までの体制を構築出来ないか。

A 有害鳥獣は市町の境界を越えて移動するため、広域で取り組むことは重要。今後、県とも連携して対策を進める。

※ジビエ
食材として利用される野生鳥獣の肉。

※減容施設
捕獲された野生動物を微生物分解などで体積を減らす施設。



未来へつなぐ米づくり

武器ではなく 尊厳と命を守る避難所を

中里　芳之 議員

動画はこちら



Q 今回の熊本地震でも、避難所に間仕切りなどが入り始めたのは1週間後。10日後でも雑魚寝の避難所があった。避難所に冷房がなく車中泊が多数出た。本市で大災害があった場合、一日二日でスフィア基準※を達成した避難所を提供できるか。何日間も雑魚寝を余儀なくされたり、シャワーもないなどということにはならないか。

A それについては確約はできない。

Q イタリアでは、48時間以内に災害用テント・トイレ・ベッド・シャワーが整い温かい食事も提供される。国が防災に人も金も使っているからだ。日本は、防災庁には651億円、軍事費には9兆円。軍事費一辺倒だ。お金の使い方を変える必要があるのではないか。

A 国の方針なのでコメントできない。

Q 小泉防衛相は、「核兵器に関してタブーなく議論すべきだ」、武器輸出について「平和につながる」と発言。平和宣言都市の市長としてどう思うか。

A 防衛大臣の発言は承知していない。

Q 「特定利用空港」指定を県が受ければ、訓練や実戦で自衛隊や米軍に利用され戦時には攻撃目標となる。指定を受けないよう働きかけを。

A 必要であれば他市町村と話をして検討する必要がある。

※スフィア基準
災害などの人道危機における被災者に保障されるべき国際的な最低基準。



非核平和都市宣言の意味を熟考すべき時

安全な街づくりと 未来を担う人づくり

矢萩　浩次 議員

動画はこちら



Q 近年の短時間大雨は身近な脅威、一段階引上げた対策が必要だ。特定都市河川※に指定された大旦川を含め調節池の早急な整備が必要では。

A 対策計画を今年度末にまとめ公表、調節池は暫定調節池の整備効果を踏まえ検討予定。

Q 水害リスク軽減が見込まれる大淀分水路の事業概要と、期待される治水効果について伺う。

A 令和2年規模増水に対し氾濫を防止、浸水軽減。大淀狭窄部の流入呑み口から、幅・高さ約15mのトンネルと開渠の水路を流れ富並側へ。

Q 呑み口はビューポイントに予定される。環境に配慮した人を呼び込める眺望デッキや、見学トンネルのある分水路を国に要望提案してはどうか。

A 国でも周辺環境へ考慮していると推測する。観光資源のひとつとなるよう要望していく。

Q 教育基本目標である「村山を愛し、未来の創り手として輝く人づくり」に向けた所見を伺う。

A 激動の時代を生き抜くには、豊かな感性と郷土を愛する強い心が不可欠。充実した教育には、現場で先生方が生き生きと指導出来る環境による、楽しい学校づくりが村山愛の醸成に繋がる。

Q 地元愛醸成の機会として産業フェアを職業体験の場に、さらにキッズまちゼミを提案する。

※特定都市河川
市街化が進み雨水が川に一気に流入、頻繁に浸水被害が起きる川を、地域ぐるみで集中的に水害対策を進める仕組み。



最上川ビューポイント
最上川美術館より大淀分水路の呑み口予定地を見る

～村山市の未来のために～ 学びを市政に活かします

●総務文教常任委員会　行政視察　7月13日 酒田市／秋田県由利本荘市

酒田市デジタル変革戦略

「ちいさなことから変えてみる・ぬくもりを大切にする」ことを基本理念とし、市民目線で、市民一人ひとりに寄り添うことを大事にする戦略の一つの、市民マイページ「さかたコンポ」というツールは、個人情報を設定することで自分に最適化された情報を受け取れ、具体的な手続きや申請が可能になります。

災害時には、防災無線や水位計との連携で登録者に正確に文字で情報が伝わること、また市民の「備える」意識への効果も認められていました。



防災分野におけるDXについて学ぶ

由利本荘市DX推進計画

DX推進計画は、デジタル庁が提示している「サービス設計12箇条」を行動指針として、市民も職員も市役所に行かなくてよい社会を目指すものです。大雨時の避難情報等の発令の際、屋外スピーカーからの音声が聞き取りにくくなり、音声が途切れて内容を誤認してしまうリスクや、放送が聞こえないからまだ安全だと誤解してしまうリスクを防ぐため、防災行政無線を使用していませんでした。

文字などによる情報伝達の重要性を強く認識しました。



豪雨災害対応にDXの効果を学ぶ

●産業厚生常任委員会　行政視察　7月15日 上山市／飯豊町

上山市官民協働の観光まちづくり

従来の自治体・観光協会・交通事業者・宿泊事業者が個別に行っていたバラバラの活動や、経験や勘に頼る取り組みではなく、登録DMOの認定を受けた(一社)上山市観光物産協会を中心に各団体が連携し、データ分析に基づいた戦略的プロモーションなどの取り組みを実施し、観光誘客や消費拡大を図っていました。



(一社)上山観光物産協会との意見交換

飯豊町持続可能な観光計画

町の代表的な地域資源である白川湖の水没林を中心に、滞在型・高付加価値観光への転換やオールシーズン観光の推進、地域産業との連携、交流人口の拡大を重視した観光政策を行っています。

観光客数ではなく観光消費額、滞在時間、地域経済への波及効果を重視し、行政・観光事業者・農業者・商工業者・住民が一体となって観光地域づくりをすすめており、持続可能な観光の実現には地域全体の参画が不可欠であることを学びました。



オールシーズン観光を学ぶ

●産業厚生常任委員会　(一社)村山市観光物産協会との意見交換会　7月10日 バラ交流館

村山市観光物産協会事業

村山市の観光物産のPRやバラ交流館の指定管理をはじめ、各種イベントの開催、ふるさと納税返礼品の発送など、幅広い事業に取り組んでいます。

観光では「バラ」「徳内ばやし」「そば街道」などの地域資源を活用し、県内外から多くの観光客を呼び込んでいます。居合道体験は、真剣での試し斬りができなくなった後も体験者は減少せず、サムライ体験や歴史への関心から新規客やインバウンドの客も多く、貴重な体験ができると人気があります。

一方、ふるさと納税の新たな返礼品の発掘やリピーターの確保、観光施設の受け入れ体制などが課題となっており、今後の観光振興に向けた取り組みについて意見を交換しました。



バラ交流館にて意見を交換する

●議会運営委員会オンラインセミナー　7月24日　全員協議会室

総合計画とデータ利活用への議会としてのかかわり方

議会の監査機能や政策提案機能の質向上を目的としたオンラインセミナーを受講しました。講師には、三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社の主席研究員・大塚敬氏を迎え、「政策立案能力向上に向けたデータ利活用、EBPMの基礎知識と質問への生かし方」をテーマに講演が行われました。

講演では、政策判断において勘や経験、前例に頼るのではなく、データや統計、実証研究に基づく客観的な根拠を重視するEBPMの重要性が強調されました。また、データ分析の基礎力や統計活用の必要性を認識し高めることが求められるとされており、さらに例題を用いた実践的な演習も行われ、理解を深める有意義な機会となりました。

これからの議会活動に存分に生かしていきます。



「オンラインセミナー」受講中

●会派合同視察（市政・公明クラブ　市政クラブ）　8月24日　酒田市

持続可能な地域医療を目指して

人口減少社会における持続可能な地域医療のあり方について、酒田看護専門学校の栗谷義樹学校長から講議を受けました。庄内地域では病院の再編・統合や「日本海ヘルスケアネット」の設立を通じ、公立・民間の医療機関が連携し、限られた医療資源を地域全体で支える取り組みが進められています。

北村山地域においては、人口減少や医療従事者の不足が進む中、個々の病院だけで考えるのではなく、それぞれの役割を分担し、医療圏全体を見据えた「地域デザイン」が重要です。将来にわたり「地域の命と暮らし」を守るため、データに基づく議論と広域的な連携による持続可能な医療・介護体制の構築が必要です。



酒田市民健康センターにて

●会派視察（市政・公明クラブ）　7月1日～3日　青森県

新規就農者支援・スマート農業推進　7月1日 青森市

農業就業者の減少と高齢化が進む中、農作業の省力・軽労化を進めるとともに、新規就農者の育成・確保を図るため、農業の新たなステージを切り拓くスマート農業の普及に努め、新技術の導入を行う農業者支援事業を推進していました。

本市も持続可能な農業経営のため、さらなる支援が必要と感じました。



持続可能な農業経営について学ぶ

学校統廃合後の地域活力維持と利活用　7月2日 五所川原市

小学校は18校から10校に、中学校は７校から６校へ統廃合。廃校となった小学校を活用しキノコ栽培をして若者の雇用増や地域産業の拠点とする取り組みは参考になりました。



「学校統廃合後の地域活力維持と利活用」について伺う

つがるブランド農産物推進事業　7月2日 津軽市

米、メロン、スイカ、リンゴ、ネギ、ゴボウ、トマト、ナガイモが指定されています。

担い手不足と高齢化のため、生産量維持には、いかに新規就農者を定着させるかが課題です。



つがるブランド
メロンのハウス水耕栽培

地域資源を生かした観光施策　7月3日 鶴田町

日本一長い木造三連太鼓橋「鶴の舞橋」や、生産量が日本一の「スチューベン」があり、議員自ら観光ガイドボランティアをするなど、町の意気込みを感じました。



津軽富士見湖と岩木山が織りなす絶景

●会派視察（市政クラブ）　9月30日　高畠町

新しい学校のかたち「高畠町デュアルスクール」

デュアルスクールとは、地方と都市の２つの学校の行き来を容易にし、地方と都市、双方で学ぶことができる新しい学校のかたちで、令和５年度より東北初としてスタートしました。

特　徴

①住民票や学籍の異動が不要となる「体験入学型」
②町内の学校に通った出席日数も在籍校の出席日数としてカウント
③滞在先は町内の宿泊施設を使用　など

実施による効果

①農業体験や雪遊びなどの自然体験や学校・地域活動により、多様な価値観、柔軟な対人力などを醸成する
②保護者は新たな働き方やライフスタイルを実現でき、他地域とのつながりが広がる
③おためし移住や二地域居住が実践できる　など

子ども、保護者、学校、地域からは、「お互いに良い刺激になった」、「交流が楽しかった」など多数の感想が寄せられており、町おこし、地域おこしの新しい取り組みを感じました。



二井宿小　体験入学田んぼ学習

市民の声

いい猟師を目指します



黒沼（くろぬま）　秀安（ひでやす）さん（大高根）

父（狩猟歴50年）の影響で猟を始めた私は、地域でも数少ない若手猟師ですが、所属する大高根猟友会では会員は70代が中心で高齢化が進んでいます。年齢の差もあり、猟についてなど教わる機会はなかなかありませんでした。

そんな中、村山ジビエ愛好会に参加したことで、活発で明るい仲間ができました。ここで、狩猟や罠、解体法を学び、情報発信やイベントにも取り組むようになりました。今後は学びを深めて駆除隊員となり、クマやイノシシによる農作物被害の軽減に貢献したいと考えています。また、自身が経験を積むことで猟師の魅力を伝え、仲間を増やし、地域の担い手確保にもつなげたいと思っています。



今年もイベントやります!!



クマによる農作物の被害を減らしたい



解体を学ぶ

〈表紙写真〉

市内で活躍する若者を取材しました。

工藤さんは大手カーディーラーで勤務していましたが、現在は大久保の実家で経営している㈱工藤自動車の後継者として日々仕事をされています。

「公共交通機関の少ない地方では、車は人々の移動に欠かせません。お客様の大切な車両をしっかりと整備して、安心・安全に乗車していただくのがわたしの責任であり、使命であると思っています。」と力強く語ってくれました。



㈱工藤自動車　工藤 浩太さん

発行　山形県村山市議会　●編集　広報広聴委員会　印刷　㈱光洋印刷

広報広聴委員会

委員長		副委員長	
吉田	創	瀧田	順子
委　員			
大山	正弘	矢萩	浩次
阿部	正任	髙橋	卯任
森	直也	松倉	慶子

参加者募集！ むらやま未来議会（模擬議会）開催！



あなたの「聞いてみたい」「こうなったらいいな」を市政に届けてみませんか？

開催日　令和9年1月30日（土）
時　間　13：30 ～ 15：30
会　場　甑葉プラザ
対象者　村山市内に在住・在勤・在学の若い方

募集人数5名

※詳しくは村山市ホームページをご覧ください。▶